

「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」の編集にあたって

城 和 貴†

今年度第2回目のTOMの発刊です。前号のTOM12発刊からすぐに編集作業を終える予定でしたが、何かと時間がとれず、この時期になってしまいました。しかしながら、次号TOM14はシンポジウム特集号ということもあり(ゲスト・エディタと)同時並行で編集作業を行っているため、引き続きすぐに発刊できる予定です。また、12月開催のMPS研究会に連動した投稿論文の採否によれば、年度内にTOM15を出せるかもしれません。昨年度は1回しか発刊できなかったのに、今年度は4回も発刊するとすると、情処事務局の困惑が十分予想されますが、何せこのところMPS/TOMの講演/論文投稿が多くて、毎回のようにTOM編集委員は牛馬のごとく働かされております。まあ、結構なことなのですが。

TOM13では、2004年9月のMPS51(沖縄)から1本、2004年12月のMPS52(東京)から1本、2005年3月のMPS53(白浜温泉)から6本、2004年度研究会非連動投稿から2本のオリジナル論文と、MPS51とMPS52からそれぞれ1本の事例紹介論文、MPS53からサーベイ論文1本の合計13編を掲載しています。MPS51-53の研究会連動投稿と2004年度研究会非連動投稿の採録論文数/投稿論文数は2/2、2/2、7/11、2/3で、採録率は72%となります。ただし、MPS51とMPS52で不採録になった論文のカウントは、TOM12で行っていますので、実質的な採録率はもう少し下ります。

TOMのこれまでの通算の採録率を計算しますと、次のようになります。

- TOM1-10 総計=138/249 = 55.42%
- TOM1-11 総計=149/273 = 54.58%
- TOM1-12 総計=164/301 = 54.48%
- TOM1-13 総計=177/319 = 55.49%

今回特記すべきことは、TOM刊行以来、初めてサーベイ論文を出したことでしょう。編集委員の中からも、「え?そんな形態の論文、あるの?」と質問が相継ぎましたが、実は当初からあったのです。TOMは数理モデルという切口で、ありとあらゆる分野の論文を輩出することを目的としていますが、その性格上、論文の評価の種類もバラエティを持たせて計画しました。事例紹介論文が代表的なものです。それ以外にも、TOM読者とまったく異なる分野からの投稿に対して、サーベイを行ってくれるようなものも論文として位置づけております。ただ、これまで実績がともなっていなかったのですが、今回、そのような論文を発掘できたことは、非常に大きなポイントだと思います。実はそのような種類の論文を規定に入れた本人(現編集委員長)が長らく忘れていたという噂もあるのですが(笑)。今後もさらに新たな評価種類をによる新たな形態の論文を考えていきたいと思っています。

今号の採録論文13編の担当編集委員は、高階知巳、城和貴、小林聡、馬場謙介、北栄輔、渡邊真也、棟朝雅晴、山崎浩一、藤本典幸、伊藤実、古瀬慶博、笹倉万里子となっています。

配布部数につきましては、これまでどおり1,000部を予定しております。なお、論文誌の定期購読制度もありますので、ぜひ、こちらをご利用ください。また、研究会開催記録、研究会登録案内、投稿案内などに関する最新の情報はすべてWWWページ上に掲載しております。すべての情報は研究会ウェブページ(<http://www.ipsj.or.jp/sig/mps/>)よりたどることができますので、MPS研究会および論文誌TOMに関しては、そちらをご参照くださいますよう、お願い申し上げます。

† 情報処理学会論文誌「数理モデル化と応用」編集委員長
奈良女子大学